

正誤表（達成状況評価）

40：山梨大学

No.	現況分析単位 (学部・研究科等)	頁数	誤	正	修正事由
01		p.3	⑤専門性による業務の部門化（各センター）長、	⑤専門性による業務の部門化（各センター）、	不要な語句があったため
02		p.4	保健管理センター及び学生サポートセンターの連携するため	保健管理センター及び学生サポートセンターを連携するため	誤字があったため
03		p.4	の申請があり、うち 27 件、（平成 28 年度 7 件、	の申請があり、うち 27 件（平成 28 年度 7 件、	不要な読点があったため
04		p.4	総額 35,604 円（平成 28 年度 10,743 千円	総額 35,604 千円（平成 28 年度 10,743 千円	脱字があったため
05		p.5	整備した。（中期計画 2-1-2-1、2-1-2-3、2-1-2-4）	整備した。（中期計画 2-1- <u>1</u> -1、2-1-2- <u>1</u> 、2-1-2- <u>2</u> ）	誤字があったため
06		p.17	教育の内部質保証のしくみを令和元年度までに構築する。	教育の内部質保証のしくみを令和元年度までに構築する。 <u>(★)</u>	脱字があったため
07		p.28	地方創生に貢献できる人材を育成する。(★)	地方創生に貢献できる人材を育成する。(★) <u>(◆)</u>	脱字があったため
08		p.28	融合研究で得られた成果を、「発展性のある諸学融合の大学院特別教育プログラムにより	融合研究で得られた成果を、「発展性のある諸学融合の大学院特別教育プログラム」により	脱字があったため
09		p.28	教育をめざす「協応行動科学特別教育プログラム」各特別教育プロ	教育をめざす「 <u>協応行動科学</u> 」の各特別教育プログラムを	誤字があったため

正誤表（達成状況評価）

			グラムを		
10		p.31	評価マネジメントシステムを令和元年度までに構築する。(★)	評価マネジメントシステムを令和元年度までに構築する。(◆)	誤字があったため
11		p.37	No11 教学関係各種委員会の役割及び構成の見直しを行い、全学的なマネジメント体制を強化する。	No11 教学関係各種委員会の役割及び構成の見直しを行い、全学的なマネジメント体制を強化する。 <u>(★)</u>	脱字があったため
12		p.45	表彰制度（仮称:Best Teaching Award）を平成 30 年度までに整備する。	表彰制度（仮称:Best Teaching Award）を平成 30 年度までに整備する。 <u>(★)</u>	脱字があったため
13		p.45	総額 35,604 円（平成 28 年度 10,743 千円	総額 35,604 千円（平成 28 年度 10,743 千円	脱字があったため
14		p.46	「教育学部及び教育学研究科等の学生と学部長のと懇談会」	「教育学部及び教育学研究科等の学生と学部長 <u>と</u> の懇談会」	誤字があったため
15		p.49	入学料・授業料免除、奨学金及び奨励金等による経済的支援を充実させる。	入学料・授業料免除、奨学金及び奨励金等による経済的支援を充実させる。 <u>(★)</u>	脱字があったため
16		p.51	支援スキルの向上を図るなど、多様な学生に対する支援機能を強化する。	支援スキルの向上を図るなど、多様な学生に対する支援機能を強化する。 <u>(★)</u>	脱字があったため
17		p.64	その活用を通して優秀な人材を集積して国際的な研究水準の拠点形成を目指す。(★)	その活用を通して優秀な人材を集積して国際的な研究水準の拠点形成を目指す。(★) <u>(◆)</u>	脱字があったため

正誤表（達成状況評価）

18	p.66	研究と教育を一体化させるサイクルを構築する。(★)	研究と教育を一体化させるサイクルを構築する。(◆)	誤字があったため
19	p.69	本学の強みとなる国際的な研究水準の数の拠点形成を目指す。(★)	本学の強みとなる国際的な研究水準の数の拠点形成を目指す。(★) <u>(◆)</u>	脱字があったため
20	p.71	令和元年度以降に新たな融合研究プロジェクトを立ち上げる。	令和元年度以降に新たな融合研究プロジェクトを立ち上げる。 <u>(★)</u>	脱字があったため
21	p.75	情報解析に関する研究を展開し、その成果を地域に還元する。	情報解析に関する研究を展開し、その成果を地域に還元する。 <u>(★)</u>	脱字があったため
22	p.77	その成果をもとに地域連携事業を展開する。	その成果をもとに地域連携事業を展開する。 <u>(★)</u>	脱字があったため
23	p.82	高度な専門性を有する研究支援人材の配置を拡充する。	高度な専門性を有する研究支援人材の配置を拡充する。 <u>(★)</u>	脱字があったため
24	p.92	毎年度5名程度ワイン・フロンティアリーダーを養成する。	毎年度5名程度ワイン・フロンティアリーダーを養成する。 <u>(★)</u>	脱字があったため
25	p.94	それを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。	それを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。 <u>(★)</u>	脱字があったため
26	p.108	本学の強みとする融合研究分野を中心に最先端の共同研究を促進する。	本学の強みとする融合研究分野を中心に最先端の共同研究を促進する。 <u>(★)</u>	脱字があったため